

# 安全報告書

---

2025



愛知高速交通株式会社

## I ご利用の皆様へ

いつも東部丘陵線（リニモ）をご利用いただき、誠にありがとうございます。また平素より、私ども軌道事業に対してご理解をいただき、感謝いたします。

さて、2024年度の輸送人員につきましては、前年度比5.2%増の約1,010万人でした。ジブリパーク内に開園した新規エリア効果などにより、定期券以外の乗車券および通勤定期券をご利用されるお客様が増加しましたが、通学定期券ご利用のお客様は、前年度比0.5%減、コロナ前（2019年度）比で8.3%減と厳しい状況が続いております。安全にかかわる取り組みにつきましては、車両等設備の整備点検や社員の教育訓練など従来の水準を維持しながら計画的に実施し、社員一丸となって安全目標の達成を目指しました。その結果、運転事故は皆無であったほか、お客様のお怪我を伴う事故・輸送障害を発生させることなく、安定した輸送を提供することができました。

当社は、全線が地下・高架構造であること、全駅にホームドア・ホームスクリーンを完備していること、自動列車制御装置（ATC）でバックアップされた自動無人運転（ATO）であることなど、高い水準の安全設備を備えていますが、これに慢心することなく安全意識の一層の高揚を図り、さらなる安全性の向上に努めてまいります。

当社は、2025年3月6日に開業20周年という節目を迎えました。これまで多くの皆さまに支えられ、成長を続けてこられたことに、心より感謝申し上げます。開業以来、「安全・安心」を最優先に掲げ、真摯な姿勢で歩んでまいりました。これは私たちの礎であり、これからの未来においても決して揺るぐことのない信念です。

今後も、社員一人一人が安全で安定した輸送の確保に取り組み、総力をあげてお客様に安心して信頼してご利用いただけるリニモを目指して日々努力を重ねてまいります。

この報告書は、軌道法第26条において準用する鉄道事業法第19条の4の規定に基づき、輸送の安全確保のための取り組みや実態についてとりまとめたものです。皆さまからの声を輸送の安全に役立てたく、ご意見を頂戴できれば幸いです。今後とも、ご愛顧とご支援を賜りますようお願いいたします。

愛知高速交通株式会社 代表取締役社長

横井 篤史

## II 輸送の安全確保に関する基本的な考え方

### 1 安全基本方針

当社は、輸送の使命である安全確保を推進するため、安全方針、防災の基本方針及び安全行動規範を次の通り定め、全社員が一丸となって安全確保に努めてまいります。

#### ○安全方針

- 安全はすべてに優先する
- 安全の維持・向上に努める
- 安全輸送で地域に貢献する

#### ○防災の基本方針

お客様及び社員の安全確保を最優先に行動し、相互協力で防災・減災・早期復旧・運転再開に努める

#### ○安全行動規範

- (1) 一致協力して、輸送の安全確保に努めます。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともに、これを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- (4) 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- (5) 事故・災害が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全で適切な処置を行います。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革に努めます。

## 2 安全目標

2024年度は、「お客様には絶対にお怪我をさせない」を安全目標と定めて安全で安定した輸送をご提供できるよう取り組んでまいりました。その結果、お客様のお怪我を伴う運転事故や故障・トラブル等の発生はなく、安全目標を達成することができました。

2025年度については、「お客様の死傷を伴う事故を発生させない」を安全目標として、輸送の安全確保に努めてまいります。また、この安全目標を達成するため「人身障害事故等の運転事故の防止」「ヒューマンエラーの排除」「安全意識・安全レベルの維持向上」を安全重点施策と定め、これらの施策を達成するため具体的な実施計画を立てて積極的に取り組んでまいります。

2025年度につきましても、お客様に安心してご利用いただけるように、安全であるとともに安定した輸送の提供に努めてまいります。

# 2025(令和7年)年度 安全目標

## お客様の死傷を伴う事故を発生させない

### 安全重点施策

#### 1 人身障害事故等の運転事故の防止

- (1) 列車出発時の安全確認の確実な実施
- (2) 定期的な教育、訓練によるスキルアップと安全意識の向上

#### 2 ヒューマンエラーの排除

- (1) 確認の励行と連絡の徹底
- (2) ヒヤリハット情報の収集、分析、共有による事故の再発・未然防止

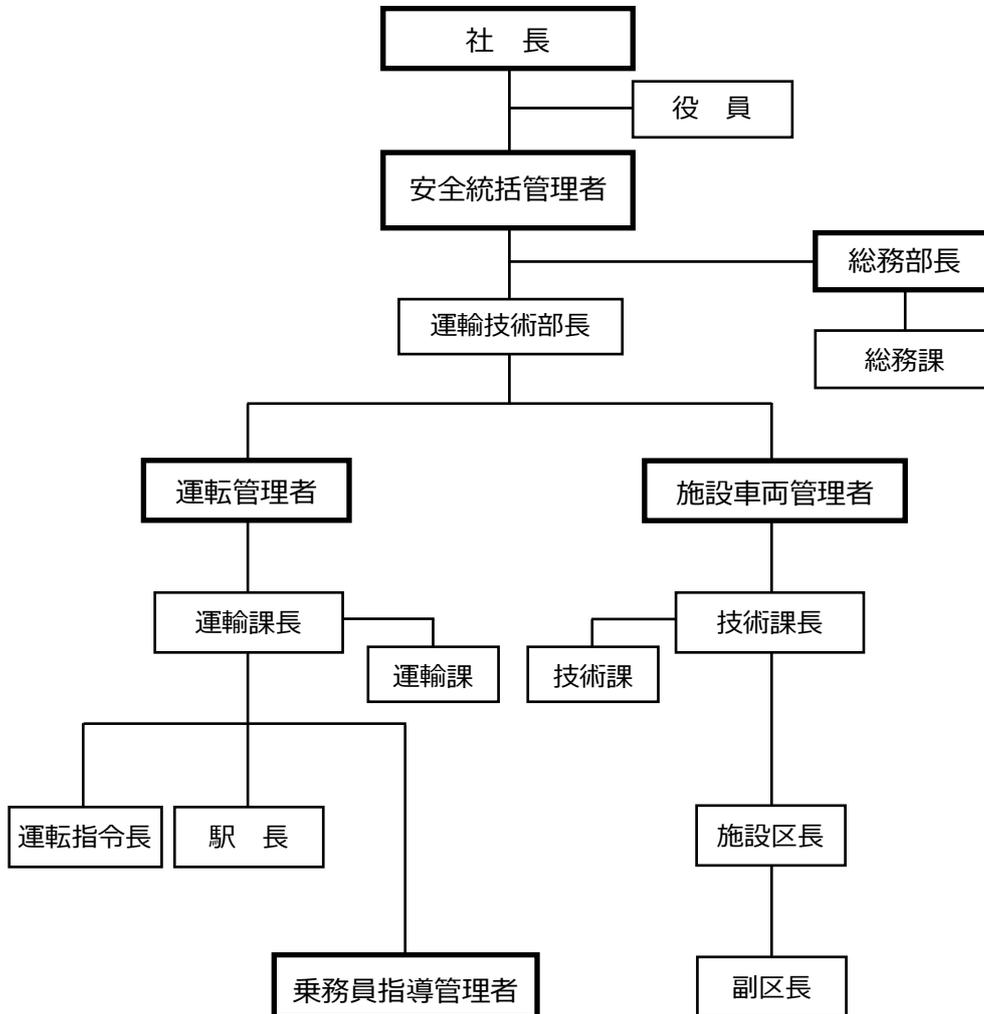
#### 3 安全意識・安全レベルの維持向上

- (1) 保安設備、施設の計画的な巡回、点検、整備の実施
- (2) 風通しのよい社内の環境づくりの推進
- (3) 自然災害、感染症、テロ等に対する安全対策の推進

### Ⅲ 安全管理体制と方法

#### 1 安全管理の体制

社長をトップとする安全管理体制を、下記のとおり構築して運用しています。



#### 責任者の主な責務

責任者	主な責務
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、操縦者等の資質の保持に関する事項を管理する。
施設車両管理者	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設及び車両に関する事項を統括する。
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

## 2 安全管理の方法

安全管理は以下の方法で実施しています。

項目	内容
事故防止会議	「事故防止会議規則」に基づき、役員・部長・課長と各現場長を構成員とした事故防止会議を定期的で開催して、輸送障害や故障・トラブル情報、ヒヤリハット情報等を会議の場で報告し、運転と施設の管理部門と現業部門で審議することにより、自部門だけでは気がつきにくい問題点や原因の洗い出しをして、再発防止対策を決定することとしています。また、他社で発生した事故、輸送障害及びインシデント等についても当会議において審議して、類似事故・障害を未然に防止するために必要な対策を講じることとしています。 事故防止会議は、原則として2か月に1回開催していますが、緊急対策が必要なトラブルが発生した時などは、臨時に開催することとしています。
安全マネジメントレビュー	運輸安全マネジメント制度におけるガイドラインで、自社の安全管理体制が有効に機能しているかを安全マネジメントレビューとして評価し、必要により改善するよう求めています。 2024年度においては、前期9月と後期3月にマネジメントレビュー会議を開催して、運転部門と施設部門から重点実施項目の実施状況等について報告を行い、その結果に基づいて2025年度の安全目標及び安全重点施策を審議して決定しました。
ヒヤリハットの取組み	ヒューマンエラーに起因する輸送障害の発生をなくすためには、ヒヤリハットなどの事象についてもできるかぎり早期に把握して、対策を講じることにより事故の芽を排除していくことが大切であると考えます。そのため、社員から日常の業務の中に潜む「ヒヤリハット情報」を吸い上げて、原因やリスクなどを分析して必要な対策を協議・決定したうえで、水平展開しています。2024年度のヒヤリハット報告件数は19件でした。このヒヤリハット情報は、事故防止会議及び安全衛生会議において情報展開するとともに、必要な対策を講じたうえで各職場へ水平展開して、全ての社員が共有するようにしています。
異常時訓練等の実施	毎年、交通安全運動や年末年始輸送安全総点検の期間中に車両故障や輸送障害を想定した異常時対応訓練を実施しています。また定期的に研修会を開催して、異常時における列車の安全な運行を確保できるよう、運転指令員や操縦者をはじめ係員の知識技能の維持向上を図っています。

## 3 安全管理体制の見直し

関係部署の安全管理体制の取組みが構築され、その仕組みが適切に運用され、有効に機能しているかについて確認し、社内全体の安全管理体制を継続的に改善する仕組みを確立するために、内部監査を継続して実施しています。

2024年度の内部監査は、2025年1月に実施いたしました。その結果、不適合事項はありませんでしたが、軽度な改善処置について助言がありましたので、関係する管理者に報告し必要な処置を実施しました。今後も、内部監査を通じて安全管理体制が適切に機能していることを確認し、輸送の安全確保に努めてまいります。

## IV 輸送の安全の実態

### 2024年度の事故等の発生状況

2024年度は、「重大事故」・「運転事故」・「インシデント」・「災害」・「電気事故」の発生はなく、輸送障害も発生しておりません。よって、監督官庁からの行政指導はありませんでした。

## V 安全確保のための取組み

### 1 人材教育による安全体制の確立

東部丘陵線は、無人自動運転（一部の列車で手動運転または添乗します。）を行っていますが、車両故障等が発生した場合は、操縦者による手動運転が必要となります。このため、操縦者の養成を計画的に行っており、2023年度までに59名を、2024年度は2名の操縦者を養成しました。なお、免許取得後も定期的に教育訓練を行っています。

### 2 保安設備の計画的な整備と点検による安全対策

東部丘陵線には、列車が安全に運行できるように自動列車制御装置（ATC装置）、自動列車運転装置（ATO装置）、車両と運転指令室との間の双方向のデータ伝送・音声の伝送装置、ホームの監視装置、車両に電力を供給する変電所の遠隔制御装置等と、これらを総括する運行管理装置を設けています。

運転指令室では、大型の画面で集中かつ効率的に監視し、列車の運行、変電所、車両の状態、そして各駅の駅務機器などを総合的にコントロールします。また、全ての駅のホームには、ホームドア及びホームスクリーンを設けて、お客様の軌道内への転落防止を図っています。なお、安全対策として、2020年度よりホームドアの上部にレーザーセンサを設置して、列車とホームドアの間に人の存在等を検知した場合は列車を出発させないようにする「出発時支障検知システム」を導入したほか、藤が丘駅のホームには列車を緊急停止させるための「非常停止ボタン」を増設しました。これらの保安設備を安全・有効に活用することができるよう、計画的に整備点検を行っています。



運転指令室

### 3 緊急時訓練の実施による対応力の向上

運転事故発生など不測の事態を想定し、社員が一丸となってお客様の人命救助と併発事故の防止を最優先とした体制を確立して対応できるよう、計画的に訓練を実施しています。

2024年度は、全社員を対象とした「列車乗込み及び非常脱出装置取扱訓練」、運転指令員と操縦者を対象とした「連結・推進運転および本線での入換訓練」等を実施しました。このうち、「列車乗込み及び非常脱出装置取扱訓練」は、社員が通勤や業務で列車乗車中に、災害や故障等でお客様の避難が必要な事態が発生した場合に、安全で迅速な対応ができるよう、全社員を対象として定期的を実施することとしています。

緊急時対応訓練は、今後も計画的に継続して行い、社員のレベルアップを図ってまいります。

2024年度に実施した主な訓練・教習は次のとおりです。

・列車乗込み及び非常脱出装置取扱訓練	対象者：全社員
・ホームドア・車両ドア取扱訓練	対象者：操縦者、駅係員、運転指令員
・駅設備取扱訓練	対象者：施設区員
・分岐装置取扱い訓練	対象者：施設区員
・連結・推進運転および八草駅入換訓練	対象者：運転指令員、操縦者
・テロ対応訓練	対象者：操縦者、駅係員、運転指令員
・断路器操作盤等取扱訓練	対象者：施設区員
・運転指令研修会	対象者：運転指令員

○列車乗込み及び非常脱出装置取扱訓練（2024年4月16日、17日、18日）

大規模地震の発生や車両故障等により駅間に停止した列車から、乗り合わせた社員または駆けつけた社員がお客様を安全・迅速に最寄駅まで避難誘導をすることができるように、列車乗込み手順と非常脱出装置の取扱訓練を実施しました。あわせて、異常時の取扱いに関するペーパー試験を実施したほか、車両ドア異物挟み対応訓練を行いました。

○列車乗込み手順と非常脱出装置の取扱訓練



○非常脱出装置の取扱訓練



○車両ドア異物挟み対応訓練



○異常時の取扱いに関する確認試験



○ホームドア・車両ドア取扱い訓練（2024年6月18日、19日、20日）

駅到着直前または出発直後に車両故障等によりホーム区間に停止した列車へ迅速かつ安全に乗込むための手順およびホームドア及び車両ドアの取扱いについての訓練を行いました。

○停止位置の確認と運転指令との打合せ



○ホームドアを手動取扱い



○手動運転に切換え停止位置を修正



## ○駅設備取扱い訓練（2024年7月9日）

施設区が管理する駅設備の取扱い及び機能を理解することで、異常時（災害・故障）に迅速で適切な対応ができるよう、また対応時のヒューマンエラーを防止することを目的とした駅設備（非常停止ボタン、ホームドア、非常扉、スクリーンドア支障物検知システム、非常電話）の取扱い訓練を実施しました。

### ○非常停止ボタン取扱い



### ○非常電話取扱い



### ○ホームドア取扱い



### ○非常扉



### ○スクリーンドア支障物検知システム



## ○分岐装置取扱い訓練（2024年9月24日）

車両基地において、分岐装置の機能を理解するとともに故障時に迅速で適切な対応することができるよう、分岐装置の転換不良を想定した手回し訓練を実施しました。



○連結・推進運転および八草駅入換訓練（2024年10月10日終列車後）

愛・地球博記念公園～八草間の下り線において、車両故障により自力走行不能となった列車を後続列車で救援し、八草駅を經由して車庫へ収容する際の手順並びに注意点などを確認する訓練を実施しました。



○故障車との連結訓練



○推進運転訓練



○八草駅入換訓練（連結状態で実施）



○テロ対応訓練（2024年12月17日・18日・19日）

刃物を所持した不審者対応として、①添乗中の車内で不審者を発見したとの想定、②藤が丘駅でホーム監視中に乗客から停車中の列車内に不審者がいるとの申告があったとの想定について、それぞれの状況に応じた旅客の避難誘導等についての訓練をするとともに、関係各所への連絡手順方の確認を行いました。

○乗客からの申告



○車内旅客の避難



○非常通報器



○さすまた・盾



○断路器操作盤等取扱訓練（2024年12月23日終列車後）

営業時間中に行うことができない断路器の操作、軌道内のセクション位置の確認、パンオーバー時の集電装置絶縁方法及び除雪ブラシ取付け等について、夜間訓練を実施しました。

○軌道内のセクション位置の確認



○断路器の操作



○集電装置絶縁方法



○除雪ブラシ取付け



#### 4 テロ対策

テロ対策として、国土交通省などの指導の下、次のように取り組んでおります。

- (1) 不審物の発見等に関するご協力をお願い放送を、駅及び車内で随時実施しています。併せて「不審物を見かけたら…係員・警察官へご一報を！」及び「安心してご乗車いただくために」(下図)のご案内が入ったポケットティッシュをお客様に配布しています。



- (2) テロ対策の一環として、「特別警戒中」の腕章を着用した係員による各駅構内の巡回を定期的実施しています。また、駅係員をはじめ施設区係員・清掃係員は「警戒中バッジ」(右図)を着用して業務を行い、不審物等を発見した場合やお客様から情報提供を受けた場合は、速やかに関係機関へ通報することとしています。



## VI お客様との連携

### 1 お客様への情報提供

列車の運行状況等に関する情報は、各駅の案内放送装置及び電光案内表示装置によって提供しています。なお、運転見合わせ等のダイヤの大幅な遅れが発生した場合には、ホームページでもお知らせをいたします。

### 2 お客様の声

お客さま、地域の皆さまからのご意見やご要望等は、電子メールをはじめ、電話、文書等によりいただいております。できる限り速やかに対応するよう努めています。2024年度は51件のご意見やご要望をいただきました。

### 3 お客様へのお願い

リモは自動運転を行っていますので、車両のドアやホームドアの開閉も自動で行われます。このため、ドアが閉まり始めてからの無理な駆け込み乗車はされないよう、くれぐれもご注意をお願いいたします。また、小さなお子様は保護者の方と手をつないでご利用いただき、ベビーカーをご使用される場合は、乗車されるときは前輪を少し浮かせて前向きで、降車されるときは後ろ向きに保護者の方が先にホームに降りていただきますよう、ご協力をお願いいたします。



緊急時に係員へ連絡が必要な場合は、ホームとコンコースに設けてある「インターホン」、もしくは車両の乗降ドアに隣接して設けてある「お客様用インターホン（非常通報器）」をご利用下さい。運転指令員と直接通話することができます。

万一、走行中の列車内で火災が発生した場合は、原則次駅まで運転をいたします。他の列車は最寄りの駅で待機させます。火災を発見したお客様は、安全な車両に移っていただき、車両に備え付けの「お客様用インターホン（非常通報器）」で運転指令員に連絡して下さい。また、各車両には消火器を備え付けていますので、危険のない範囲で初期消火のご協力をお願いいたします。運転指令員は、火災発生連絡を受けた場合、次駅まで運転を継続する、もしくは係員を派遣するなど状況に応じた適切な処置をとりますので、車内放送に従って落ち着いて行動して下さいますようご協力をお願いいたします。

お客様用インターホン（非常通報器）と消火器は、下図に表示した位置に備え付けています。



お客様用インターホン（非常通報器）

#### 4 お問い合わせ先

当社の安全に対する取組みや、安全報告書に関するお客様のご意見・ご要望は、下記によりお伺いいたします。

愛知高速交通株式会社 総務部総務課 月～金（祝日 12/29～1/3 を除く） 9:00～18:00

電話：0561-61-4781 Fax：0561-61-6221

お問い合わせは当社ホームページの「お問い合わせフォーム」よりご連絡ください。

愛知高速交通（リニモ）ホームページ

<https://www.linimo.jp>